

# 政策ニーズに対応したダイズ品種の開発 【研究計画概要】

研究期間：令和7年度～令和9年度

研究部門：農研機構・作物研究部門、北海道農業研究センター、東北農業研究センター  
西日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センター

共同研究機関・協力機関：奨励品種決定調査実施府県、実需者

## 1. 研究背景・目的

食料安全保障強化のためには海外依存度の高い大豆の自給率向上は重要な課題であり、近年、日本の大豆生産性を低さを打破する多収品種群「そらしリーズ」（「そらひびき」、「そらみずき」、「そらたかく」、「そらみのり」）が育成されてきた。一方、これまでの品種では気候変動による高温や干ばつによって生じる落花、落莢や成熟期の青立ち症状による収量の低下、莢ずれ等の障害や百粒重の低下等の品質低下のリスクが増加しており、このリスクを低減できる品種や技術開発が求められている。そのため本研究では、高温・干ばつに対応し、機械化栽培に適する多収大豆系統を開発する。



高温による成熟異常個体（左） 正常個体（右）

## 2. 研究内容

各育成拠点で多収品種群並の収量性を持つ系統を選抜するとともに、これまで実施されてこなかった雨除けや地下水位制御によるストレス条件（高温または干ばつ）での試験を実施し、収量・青立ち・百粒重・子実の外観等の農業形質を評価するとともに、狭畦密植栽培への適性等を評価し、青立ちや小粒化の少ない系統を選抜する。

また、有望系統は府県の奨励品種決定調査に供試し、広域適性等を評価するとともに、公設試と連携し、奨励品種化に向けて積極的に意見交換を行う。

さらに、優良系統は育成地での豆腐等の加工試験を実施するとともに、実需者や流通業者と緊密に連携し、複数の品目について小ロットから数十kg単位の中規模の加工適性試験等にも供試し、品種登録後のすみやかな普及を目指す。



ライシメーターを用いて地下水位を制御し、干ばつ耐性を評価

## 3. 達成目標

海外依存度の高い大豆の自給率向上による食料安全保障強化に向けて、今後深刻化が見込まれる気候変動下においても安定的な大豆生産実現に資するため、寒冷地、温暖地東部、温暖地西部、暖地の各地域に適した、高温・干ばつに対応し、機械化栽培に適する多収大豆系統を4系統以上開発する。